

Ⅱ 社会の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ◎ 「内容」ごとに1～7までの大問を示した。「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」「資料活用 of 技能」「社会的事象についての知識・理解」の4観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の概要と分析」について

- ◎ 「調査結果の概要と分析」については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続してみられる課題」を示した。
(◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント)

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ◎ 大問ごとに設問・正答・結果・誤答例・結果等について左ページに、その考察（分析・指導のポイント）について右ページ以降に記した。
- ◎ 分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。
(※誤答例は、抽出児童の主な誤答について頻度の高いもの)

1 設問のねらいと評価

評価の観点 1…社会的事象への関心・意欲・態度 2…社会的な思考・判断・表現
3…資料活用の技能 4…社会的事象についての知識・理解

領域	内容	大問	小問	設問のねらい	評価の観点			
					1	2	3	4
地理的分野	世界の地域構成	1	(1)	地図上での本初子午線と赤道の位置を理解している。			○	○
			(2)	赤道の位置について、世界の主な国家の位置と関連付けて理解している。			○	○
			(3)	正距方位図法の見方を理解し、世界の大陸について知識を身に付けている。			○	○
			(4)	日本の位置について、緯度と経度を関連付けて理解している。			○	○
			(5)	大西洋の位置と名称について理解している。			○	○
			(6)	モルワイデ図法の特徴について理解している。				○
	生活と世界の環境	2	(1)	ブラジル(熱帯)の気候の特色を理解し、その特色を示している雨温図を読み取ることができる。			○	○
			(2)	ロンドンの気候の特色について理解している。		○		○
			(3)	世界の宗教の分布について理解している。			○	○
			(4)	世界の主な山脈の位置と名称について理解している。			○	○
	世界の諸地域	3	(1)	フランスの農業の特色について理解している。			○	○
			(2)	インドネシアの輸出品の変化を読み取り、フィリピンの時間当たりの賃金とのかかわりから、東南アジアと日本の経済関係について考えることができる。		○	○	○
			(3)	ASEAN(東南アジア諸国連合)について理解している。				○
				ASEAN(東南アジア諸国連合)に属している多くの国々が共通して抱えている問題について理解している。				○
			(4)	アフリカ州の多くの国々が抱えている経済的問題点について理解している。		○		○
			(5)	資料から、アメリカの農業の特色について読み取ることができる。		○	○	○
						○	○	○
			(6)	アメリカの多国籍企業について理解している。				○
			(7)	オセアニア州の国々と他の国々との交流について理解している。				○
歴史的分野	歴史の流れ	4	(1)	中世という時代区分について理解している。				○
			(2)	縄文時代の文化財について理解している。			○	○
			(3)	西暦と世紀の関係について理解している。				○
			(4)	倭の奴国の王、中大兄皇子、源頼朝、足利義政に関するそれぞれの知識を身に付けている。				○
	古代までの日本	5	(1)	打製石器について理解している。				○
			(2)	エジプト文明の様子について理解している。				○
			(3)	弥生時代と古墳時代の様子について理解している。				○
			(4)	聖武天皇が大仏を建立した理由を時代背景とともに説明している。	○	○		○
			(5)	紫式部が書いた源氏物語について理解している。				○
	中世の日本	6	(1)	鎌倉時代の様子について理解している。		○		○
			(2)	六波羅探題が設置された位置を理解している。			○	○
			(3)	資料を読み取り、「永仁の徳政令」が出された時期について理解している。			○	○
			(4)	琉球王国が尚氏によってつくられたことを理解している。				○
	歴史のテーマ	7	(1)	資料から時代を特定し、それを古い順に並べることができる。			○	○
			(2)	古墳時代の日本と中国の関係について理解している。				○
			(3)	資料から、元寇の様子について読み取ることができる。	○	○	○	
			(4)	邪馬台国の卑弥呼について理解している。				○
			(5)	足利義満についての知識を身に付けている。				○

2 調査結果の概要と分析

◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント

全体	◇◆全体の正答率は、57.0%であり、設定通過率を 11.0 ポイント下回った。領域別の正答率は、「地理的分野」が 55.8%、「歴史的分野」が 58.3%であった。 ◇◆内容ごとの正答率では、「世界の地域構成」が 60.0%、「世界各地の生活と環境」が 51.2%、「世界の諸地域」が 56.2%、「歴史の流れ」が 58.2%、「古代までの日本」が 66.8%、「中世の日本」が 48.7%、「歴史のテーマ」が 59.3%だった。 ◆観点別に集計した正答率では、「社会的な思考・判断・表現」に課題がみられた。また、文章で答える問題は、無解答率が高い結果となった。
領域別	◇大西洋の位置と名称を問う問題の正答率は、75.1%と設定通過率（70%）を上回った。 ◇グラフや統計資料の読み取りに関する問題は、設定通過率は下回ってはいるが、どれも 70%以上の正答率であり、資料活用に関する力はある程度身に付いている。 ◆地理全体の正答率は 55.8%と昨年度の 68.1%と比べて 12.3 ポイント下回った。 ◆正距方位図法の特色と世界の大陸についての知識を問う問題の正答率が 36.3%と、昨年度の 34.6%は上回ったものの、依然として課題がみられる。また、面積を正しく表す地図に関する問題の正答率も 44.1%であった。目的に応じた地図を活用する力が不足している。 ○ロンドンの気候の特色について文章で説明する問題の正答率が 23.8%、無解答率が 20.2%、アメリカの多国籍企業に関する記述問題の正答率が 29.8%、無解答率が 29.5%であった。昨年同様、記述の問題では課題がみられ、依然として無解答率が高い。改善策としては、授業のまとめなどで、得た知識を自分の言葉で説明したり、発表したりする言語活動を取り入れた学習活動を増やすことが必要である。 ◆「歴史の流れ」では、中世という時代区分について、昨年度と比べ正答率がやや上がり、34.0%という結果であった。しかし、まだ大まかに時代の特徴をつかむ力が不足している。 ◆「古代までの日本」では、聖武天皇が大仏を建立した理由を時代背景とともに説明する問題の正答率が 51.5%であった。昨年度よりは正答率が上がったものの、「仏教を広めようとした…」「病気を治すため…」といった思考力・判断力の面で不十分な誤答が目立つ。無解答率も 19.0%と高い。 ◆「中世の日本」については、特に鎌倉時代と室町時代に関して時代の特徴をとらえていない様子が伺える。この時期の日本と東アジアとのかかわりについての誤答や無解答が多く見られた。 ◆「歴史のテーマ」に関して、古代における日本と東アジアとのかかわりについて、中国と朝鮮の立場の違いが十分理解できていない。 ○歴史の流れの中で、時代区分そのものと時代ごとの大まかな出来事・人物などの内容をしっかりと理解させる必要がある。特に、それぞれの歴史的な出来事とその因果関係、また東アジア世界とのかかわりなど広く考えさせる場面を設けたい。
継続して見られる課題	〈地理的分野〉 ◆知識と統計資料を読み取った結果を結び付けて考察する力が不十分である。また、目的に応じた地図を活用する力が不足している。 〈歴史的分野〉 ◆各時代の特色をとらえ、我が国の歴史の大きな流れを理解することに課題がある。また、歴史学習の基礎となる年代や世紀の表し方についての理解が不足している。 〈地理的分野・歴史的分野共通〉 ◆習得した基礎的・基本的な知識を関連付けたり、活用したりすることに課題がある。「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムなども参考に、小学校社会科との関連を図り、学習内容や学習方法の系統性を意識した授業づくりに取り組む必要がある。

3 領域別調査結果の考察と指導のポイント

(1) 世界の地域構成 (2) 世界各地の生活と環境

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1	(1)	地図Ⅰを見て、本初子午線と赤道の組合せとして正しいものを1～4の中から一つ選ぶ。	1	3		66.1	0.6	70
	(2)	地図Ⅰを見て、Cの線が通る国を1～4の中から一つ選ぶ。	1	4		70.2	0.6	70
	(3)	地図Ⅱを見て、東京から真東に進んで通過しない大陸を1～4の中から一つ選ぶ。 1 ユーラシア大陸 2 南アメリカ大陸 3 アフリカ大陸 4 北アメリカ大陸	4	2		36.3	0.8	60
	(4)	緯度と経度の組合せのうち、日本を通っているものを1～4の中から一つ選ぶ。	3	4		68.0	1.5	70
	(5)	地図Ⅲ中の、Xで示された海洋の名前を、漢字三字で答える。	大西洋	太平洋		75.1	1.9	70
	(6)	地図Ⅲの特徴として正しいものを、1～4の中から一つ選ぶ。 1 面積を正しく表す 2 緯線と経線が直角に交わる 3 中心からの距離と方位を正しく表す 4 大陸の形を正しく表す	1	3 4		44.1	1.1	70
2	(1)	ブラジルの熱帯地域の気温と降水量を表しているグラフを1～4の中から一つ選ぶ。	4	2		66.3	1.4	70
	(2)	ロンドン、札幌と比べて緯度の高い位置にあるが、年間の平均気温は札幌より高い。その理由を説明する。	(例) 暖かい北大西洋海流の上空に吹く偏西風が年間を通してヨーロッパに吹き込むから	(例) 赤道に近いから		23.8	20.2	60
	(3)	下線部Cについて、ブラジルで主に信仰されている宗教と同じ宗教を、多くの人が信仰している国や地域を地図Ⅳ中の1～4の中から一つ選ぶ。	4	2 3		56.9	2.4	65
	(4)	下線部Dでたけろうさんが話している山脈の名前を1～4の中から一つ選ぶ。 1 アルプス山脈 2 アンデス山脈 3 ロッキー山脈 4 ヒマラヤ山脈	2	3		57.7	1.0	70

(単位：%)

世界の地域構成・世界各地の生活と環境

問題 1 (1)

地図Ⅰを見て、本初子午線と赤道の組み合わせとして正しいものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | |
|---------|----------|
| A…本初子午線 | B…経度180度 |
| C…赤道 | D…南緯15度 |

	本初子午線	赤道
1	A	C
2	A	D
3	B	C
4	B	D

分析 正答率は66.1%と、設定通過率を3.9ポイント下回った。誤答の中では3が最も多かったことから、赤道よりも、本初子午線についての理解が乏しいということが考えられる。

問題 1 (6) ※資料省略

地図Ⅲの特徴として正しいものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 面積を正しく表す。 | 2 緯線と経線が直角に交わる。 |
| 3 中心からの距離と方位を正しく表す。 | 4 大陸の形を正しく表す。 |

分析 正答率は44.1%と設定通過率の70%を大幅に下回った。モルワイデ図法の特徴を正確に理解しておらず、正距方位図法や地球儀の特徴との混同が多く見られる。

問題 2 (2) ※資料省略

下線部Bのロンドン、札幌と比べて緯度の高い位置にあるが、下の表に示した通り、年間の平均気温は札幌より高い。その理由を簡単な文章で答えなさい。

分析 正答率は23.8%、無解答率も20.2%という結果であった。ロンドンが高緯度のわりに平均気温が高い理由について、偏西風など気候が決定される要素との関連が図れず、正答に至らなかったと言える。また、緯度、経度の理解が不足していることも考えられる。

指導のポイント

1 年間を通して、地球儀や様々な種類の地図を用いる機会を増やす。

正距方位図法やモルワイデ図法に関する問題の正答率が著しく低かった。生徒が「距離や方位を正しく表している地図」「面積を正しく表している地図」と認識せずに使用している場合が多いと考えられ、目的に応じた地図を適切に使い分ける方法を身に付けさせる必要がある。例として、各国の小麦の生産量を表す分布図にモルワイデ図法を用いて、面積の広さと生産量を結び付けるなどの学習活動が考えられる。また、「世界の諸地域」の学習では、各州、各国の面積や日本からの距離の比較など、統計資料と地図を併用した作業的な学習活動も考えられる。

2 緯度・経度を用いた位置の表し方に日頃から慣れ親しむ。

1の問題中、設定通過率を下回ったのは「地図に関する問題」と「緯線・経線に関する問題」であった。例えば、「世界の諸地域」の州ごとの学習での導入部分において、緯度・経度を用いた位置の表し方を、継続して取り組むことが効果的である。

3 作業的、体験的な活動を通して、世界の気候分布の特色をつかませる工夫をする。

世界各地の気候を取り扱う際に、分布の特色を緯線、経線入りの世界地図に着色させるなどの作業に加え、雨温図を示すことで概要をつかませる。そして小グループごとに、どのような地域にどのような気候帯が広がっているのかを考察させ、発表させることも効果的である。

(3) 世界の諸地域

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定 通過率
3	(1)	資料Ⅰ（農産物の輸出量の割合を示したもの）は、どの農産物の割合を表したもののか 1～4 の中から一つ選ぶ。	2	3		58.1	1.6	65
	(2)	資料Ⅱ、資料Ⅲを見て、東南アジアの国についてまとめた文の空欄に当てはまる言葉を答える。	労働力	賃金		15.8	13.2	60
	(3)	名称 1967年に発足した、東南アジアの10か国が加盟している組織の名称をアルファベットで答える。	ASEAN	EU		43.9	15.5	60
		番号 この組織に属している多くの国々が共通して抱えている問題について説明した文として、正しいものを 1～4 の中から一つ選ぶ。	4	1		68.4	5.4	70
	(4)	資料Ⅳからよみとれる、アフリカ州の多くの国々がかかえている経済的な問題点を 1～4 の中から一つ選ぶ。	2	4		70.0	2.7	75
	(5)	資料Ⅴを見て、アメリカの農業を正しくあらわしているものを 1～5 の中から二つ選ぶ。 1 アメリカは、農業従事者が3か国の中で最も少ない。 2 アメリカは、穀物生産量のうち、約4分の1を輸出している。 3 アメリカは、穀物国内供給量が3か国の中で最も多い。 4 アメリカは、広大な農地に対して多くの人出を使って農業を行っている。 5 アメリカは、広大な農地に対してトラクターを使い、少ない人手で農業を行っている。	2	1		73.6	3.1	75
			5	4		74.8	3.3	75
	(6)	外国に進出し、その地域の経済や社会に大きな影響をおよぼす企業の名称を答える。	多国籍(企業)	IT		29.8	29.5	60
	(7)	オセアニア州の他地域との交流について、文中の A・B にあてはまる地域名の正しい組み合わせを 1～4 の中から一つ選ぶ。	1	3 4		73.4	2.8	75

(単位：%)

世界の諸地域

問題 3 (2) ※資料省略

下の資料Ⅱは、地図Ⅵ中のBの国の輸出品目割合の変化を示したものです。資料Ⅲは、日本と地図Ⅵ中のCの国の1時間当たりの賃金を示したものです。東南アジアについてまとめた下の文の空欄に当てはまる言葉を答えなさい。

1980年のBの国は、石油や天然ゴムなどの原材料の割合が多くを占めているのが分かります。しかし、2010年は機械類の輸出が多くを占めているのが分かります。その原因として考えられる理由の一つは、日本やアメリカなどの先進工業国が、安い を求めてアジアの国々で工業製品等をつくるようになったからです。

分析 正答率は15.8%で、東南アジアの労働条件や生活水準について理解が不足している。資料Ⅲのタイトルにある「時間当たり賃金(米ドル)」を見て、賃金という記述が多かったと考えられるが、「安い労働力」という言葉の意味の理解が不十分であると言える。

問題 3 (3)

東南アジアの国々が国家の枠をこえて経済的に協力する動きについて調べました。このことについて、1967年に発足した、東南アジアの10か国が加盟している組織の名称をアルファベットで答えなさい。また、この組織に属している多くの国々が共通して抱えている問題について説明した文として正しいものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1 人口減少による労働力不足 | 2 砂漠化による食料不足 |
| 3 大規模な開発による熱帯雨林の増加 | 4 工業化が進んだ地域と進んでいない地域との格差 |

分析 正答率は43.9%で、無解答率が15.5%という結果であった。誤答例にはEUなどが見られた。それぞれの組織の名称は知っているものの、名称と地域の結び付きの理解が不足していると考えられる。また、東南アジアが共通して抱えている問題についての正答率は68.4%となっている。誤答例では、1の誤答が多く見られた。

指導のポイント

1 おもな地域の輸出入品目について理解させる。

世界のそれぞれの地域の輸出入品目について、年代による変化やその地域の産業の特色を理解していない生徒が多いと考えられる。そのため、統計資料からグラフや図にまとめる調べ学習を行うことや、年代別に表された複数のグラフから読み取る学習活動の設定を行うとよい。

2 世界のおもな組織について理解させる。

世界の諸地域にある組織(例：EUやASEANなど)について正しく理解していない生徒が多いと考えられる。そのため、それぞれの組織がどの地域に存在し、どの国が加盟し、どのような役割を果たしているかを表などにまとめさせるとよい。

(4) 歴史の流れ

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
4	(1)	様々な時代や年代の表し方のうち、社会のしくみの特徴によって時代を大きく分けた場合、「中世」に当たる時期を 略年表 中の ア～エ の中から一つ選ぶ。	エ	イ ウ		34.0	2.0	60
	(2)	縄文時代にもっとも関係の深い資料を 1～4 の中から一つ選ぶ。 1 土偶 2 武人はにわ 3 東大寺南大門 金剛力士立像 4 和同開弥	1	2		83.1	1.6	75
	(3)	略年表 中の都を平安京に移した794年は、何世紀かを数字で答える。	8 (世紀)	7 (世紀)		52.5	6.6	65
	(4)	略年表 中の太字の人物に関係しているできごとを述べた文として、 <u>まちがっているもの</u> を 1～4 の中から一つ選ぶ。	2	3		63.1	2.5	70

(単位：%)

歴史の流れ

4

<略年表>

時代	← ア →		← イ →		← ウ →		← エ →	
	じょうもん 縄文	やよい 弥生	こふん 古墳	あすか 飛鳥	なら 奈良	へいあん 平安	かまくら 鎌倉	むろまち 室町
できごと	57年		645年		794年		1192年	1467年
	倭の奴国の王が後漢に使いをおくる		中大兄皇子らが天智の改新をはじめる		都を平安京にうつす		源頼朝が征夷大将軍に任命される	足利義政のあとつぎをめぐる争いがおきる

問題 4 (1) ※資料左頁

様々な時代や年代の表し方のうち、社会の仕組みの特徴によって時代を大きく分けた場合、「中世」に当たる時期を略年表中の**ア～エ**の中から一つ選び、その記号を答えなさい。

分析 ここ数年、同様の問題を出題している。「中世」の時期を年表中から選ぶ問題で、徐々に正答率は上がっているが、依然として低い割合である。「中世」という時代の特徴や、前後の時代区分との関連がとらえられていないことが原因として考えられる。

問題 4 (3)

略年表中の都を平安京に移した794年は、何世紀ですか。数字で答えなさい。

分析 年代の表し方や時代区分は、中学校の歴史学習の導入として学習する内容である。しかし、世紀と西暦の関係の理解が曖昧であり、学習の中で十分に使いこなせていない。歴史的分野における各時代の学習において、継続的・計画的に学習させる必要がある。

指導のポイント

1 小学校の既習内容との連携を図り、作業的な学習など多様な学習活動を行う。

小学校においては、人物を重視した歴史学習が行われている。これを受け、中学校の歴史学習の導入では、我が国の歴史上の人物や出来事などについて、調べたり考えたりする活動を行い、時代の区分やその移り変わりに気付かせるとともに、歴史を学ぶ意欲を高めるような指導を行うことが求められる。具体的には、年表や人物関連図などを用いた作業的な学習、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させるための繰り返しの学習などが考えられる。

2 単元ごとのまとめとして、それぞれの時代区分の特徴やその他の時代との関連付けを意識させる。

学習指導要領の歴史的分野には、2内容(1)歴史のとらえかた「ウ 学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる」とある。具体的には、各時代の学習のまとめとして、各時代の特色を自分の言葉や図で表したり、発表する活動、意見交換をする活動を行うことが考えられる。そして、その活動を時代ごとに工夫して行いながら、時代の共通点や相違点に着目させることにより、学習内容を整理し、特色を大まかにとらえさせ、その時代の特徴を際立たせて理解させることが必要である。

「年代の表し方や時代区分」の学習での、継続的・計画的な指導のポイントについて

＜年代の表し方＞

- ・西暦（紀元前・紀元後）、世紀（紀元前・紀元後）、日本の年号（元号）について理解させる。

＜時代区分の方法＞

- ・政治の中心地によって、時代を大きく分ける方法（「平安時代」「鎌倉時代」「江戸時代」など）、社会の仕組みの特徴によって、時代を大きく分ける方法（「古代」「中世」「近世」「近代」「現代」）を理解させる。

＜年表のまとめ方＞

- ・時系列で図式化し、まとめさせる。
- ・日本の歴史の展開を、世界の動きと関連付けてまとめさせる。
- ・歴史的事象を「政治の展開」「産業の発達」「社会の様子」「文化の特色」などに分類し、他の時代の共通点や相違点に着目した上で、日本の歴史を大きくまとめさせる。
- ・「歴史の転換点となるできごと」「歴史的事象と事象のつながり」「さいたま市の歴史に関わるできごと」などを取り上げてまとめさせる。

(5) 古代までの日本

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の 正答率	市の 正答率	市の無 解答率	設定 通過率
5	(1)	石を打ち欠いてつくった、するどい刃を持つ石器の名称を答える。	打製 (石器)	磨製 (石器)		63.7	10.6	70
	(2)	エジプト文明の説明として、もっとも適切なものを 1～4 の中から一つ選ぶ。	1	2		68.4	2.2	75
	(3)	カードC・Dの年代に関係している語句の組合せとして正しいものを 1～4 の中から一つ選ぶ。	4	1		80.1	2.5	75
	(4)	カードEの に当てはまる、聖武天皇が大仏をつくらせた理由を、次の二つの語句を必ず用いて答える。 〈語句〉「仏教」「国家」	(例) 仏教の力によって、国家を守ろうとした	(例) 国家に仏教を広めるため		51.5	19.0	65
	(5)	カードFでまとめた「源氏物語」の作者名を答える。 カードF 女性の文学作品 藤原氏から出たきさきたちの周りには教養や才能のある女性が集まり、げんじものがたり源氏物語などの女性による文学作品が誕生しました。	紫式部	清少納言		70.2	7.7	75

(単位：%)

古代までの日本

問題 5 (1) ※資料省略

カードAに登場する原人は、石を打ち欠いてすどい刃を持つ石器をつくることを覚えました。この石器を何というか、その名称を答えなさい。

分析 「古代までの日本」の出題のうち、道具・遺物に関する問題であるが、正答率は63.7%、無解答率が10.6%で、無解答率が高い結果であった。「打製石器」と「磨製石器」の違いや「旧石器時代」と「新石器時代」などの正しい語句の意味や理解が不足していると考えられる。

問題 5 (4)

カードEの に当てはまる、聖武天皇が大仏をつくらせた理由を、次の二つの語句を必ず用いて答えなさい。

〈語句〉 「仏教」 「国家」

分析 正答率は51.5%、無解答率は19.0%という結果で、誤答例には「国家に仏教を広めるため」が最も多く見られた。これらの結果から、奈良時代の仏教の在り方である「鎮護国家とは何か」について考えさせるなど、言語活動の充実を図る工夫をしていくことで正しい時代認識につながっていくと考えられる。

指導のポイント

1 その時代、その時代の特徴を押さえる指導を工夫する。

今回、「古代までの日本」の出題のうち、分析対象の問題として例に挙げた2題の特徴として、無解答率が高いことが挙げられる。「旧石器時代」の特徴、「飛鳥時代」の特徴、「平安時代」の特徴として、どのような社会背景の上に文化が発展したのかを考えさせ、正しく理解させる指導の工夫が必要である。特に、「鎮護国家」などの一歩踏み込んだ知識の正しい理解は、社会背景の正しい把握と、時代とともに変わる仏教の意義を理解していないとつながりづらい。指導の工夫として、その時代ごとに特徴を押さえ、社会の変化をつかませることが必要である。

2 自分の言葉で表現することに対する苦手意識を克服する。

上記の2題では、「無解答率が高い＝①知識が不足している。②自分の言葉で表現することに苦手意識がある。」との理由が挙げられる。表現することへの苦手意識の克服には、まずは、考えさせる活動が必要である。日々の授業において、小さな発問を繰り返し、考える時間を取り、短い文章で答えたり、説明する活動を組み込んでいくことが、記述問題を解くことにつながると考えられる。各時代の特徴や時代の転換にかかわる基礎的・基本的な歴史的事象を重点的に選択し、学習内容のより確かな理解と定着を図ることが必要である。

(6) 中世の日本

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
6	(1)	年表中のイの時期の日本の様子としてまちがっているものを1～4の中から一つ選ぶ。	3	1 2		31.4	3.6	60
	(2)	年表中のX「六波羅探題」が置かれた場所を地図Ⅶ中の1～4の中から一つ選ぶ。	3	2		64.1	3.9	70
	(3)	資料Ⅵ（永仁の徳政令）を見て、生活が苦しくなった御家人を救うために幕府が出した命令が出された時期として正しいものを、年表中のア～エの中から一つ選ぶ。	ウ	エ		50.7	4.6	65
	(4)	年表中のエの時期に、地図Ⅶ中の沖縄島が尚氏によって統一された国名を答える。	琉球(王国)	琉球(誤字)		48.5	23.3	60

(単位：%)

中世の日本

問題 6 (1)

年表中のイの時期の日本の様子としてまちがっているものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 北条氏は将軍の力を弱めて執権の地位につき、その地位を独占するようになった。
- 2 朝廷の勢力の回復を図っていた後鳥羽上皇は、幕府の混乱に乗じて兵をあげた。
- 3 地方では、守護が国司の権限を吸収し、守護大名として国内の武士を広くまとめた。
- 4 武士の社会で行われていた慣習にもとづいて御成敗式目を定めた。

年表

西暦	できごと
1100	白河上皇の院政がはじまる。 ア
1200	源頼朝が征夷大将軍になる。 イ
1300	朝廷を監視するために六波羅探題を置く。 X 蒙古が襲来する。 ウ
1400	足利尊氏が征夷大将軍となる。 エ 南北朝が統一される。

分析 鎌倉時代の様子を理解しているかを問う問題であるが、正答率が 31.4%と低かった。誤答例としては、**1**と**2**が多いことから、「御成敗式目」という語句についての理解はあると判断できるが、政治の展開や変化などの流れに対する理解が不十分な生徒が多いと考える。

問題 **6** (4) ※資料省略

年表中の**エ**の時期に**地図Ⅶ**中の沖縄島が尚氏によって統一され国ができました。その国名を答えなさい。

分析 年表中の時期に沖縄島に成立した「琉球王国」を問う問題である。正答率は 48.5%とおよそ半数の生徒が理解していたが、無解答率が 23.3%と非常に高い割合を示した。このことから、琉球王国に関する理解度が低いことが分かる。東アジア世界とのかかわりや、国内に及ぼした影響など、その後の対外関係の学習にも関係するため、注意すべき内容である。

指導のポイント

1 歴史を大きくとらえ、流れを理解させる。

各時代の学習の導入時には、小学校までの学習内容を生かし、前の時代との違いを予想し、その上で比較をすることで、学習する時代の特徴を大まかにとらえ、課題意識をもたせる必要がある。また、学習のまとめでは、年表を活用させ、時代を大観する技能を習得させる。特に複数の時代にまたがる年表を活用することで、各時代の特徴を歴史の流れを押さえながら確認することができる。

2 各時代の特徴を自分の言葉で表現できるように指導する。

自分の言葉でまとめるということが苦手な生徒が多く、その指導をしていくことが求められる。その方策として、各時代のまとめにおいて、時代の特徴について字数を制限してまとめさせたり、導入の際に予想したことを確認させたりするなど、継続的に行う学習が考えられる。より細かく指導をするためには、教科書の各単元の最後に記載されている「確認」を有効に使えるとよい。

3 歴史上のできごとの原因と結果を理解させる。

選択肢の中に、代表的な歴史上の用語があれば、並び替えの設問などの正答率は上がると予想される。しかし、単に用語の暗記ではなく、歴史の流れをとらえていくことが重要である。できごとの因果関係について、できるだけ分かりやすく、学習を焦点化して指導を行うことで、「社会科が暗記科目ではない」と感じることができ、より社会科への関心や意欲を高めることができる。

(7) 歴史のテーマ

大問	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の 正答率	市の 正答率	市の 無解答率	設定 通過率
7	(1)	A～Dのそれぞれの資料が用いられた時期を古い順に並べかえ、記号で答える。 A 倭王部の手紙 B フビライの国書 C 魏志倭人伝 D 勘合	C A B D	A C B D		54.5	3.0	65
	(2)	Aの手紙は倭王武からどこに出されたものか1～4の中から一つ選ぶ。 1 朝鮮 2 中国 3 台湾 4 蝦夷	2	1		54.3	3.6	65
	(3)	Bの国書が送られてきた後のできごとについて、資料Ⅶ（蒙古襲来絵詞）ら読みとれることとして、 <u>まちがっているものを1～4の中から一つ選ぶ。</u>	3	4		70.9	2.5	75
	(4)	Cの歴史書について、Xに入る女王の名前を答える。	卑弥呼	卑弥子 (誤字)		81.9	7.5	75
	(5)	Dの合い札を用いた貿易を始めた人物の説明として正しいものを1～4の中から一つ選ぶ。	2	1		34.7	3.7	60

(単位：%)

歴史のテーマ

問題 7 (1) ※資料省略

A～Dのそれぞれの資料が用いられた時期を古い順に並べかえ、記号で答えなさい。

分析 正答率は54.5%であった。古代から中世までの広い範囲の並び替えのため、難易度としてはそれほど高くはない問題である。誤答例では倭王武からの手紙と魏志倭人伝の順番が逆になっているものが多く、資料から時代を特定するという技能が不足していることが分かる。

問題 7 (2) ※資料省略

ゆうきさんは、Aの手紙について調べました。Aの手紙は倭王武からどこに出されたものか、次の1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 朝鮮 2 中国 3 台湾 4 蝦夷

分析 正答率は54.3%であった。資料から読み取れることは、古代の中国との関係の特徴である「朝貢」についてである。誤答では1の朝鮮とするものが多く、日本の王たちが朝貢していた理由について、正しく理解していない生徒が多いことが考えられる。

問題 7 (5) ※資料省略

ゆうきさんは、Dの合い札を用いた人物について調べました。Dの合い札を用いた貿易を始めた人物の説明として正しいものを次の1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 有力な守護として、將軍の補佐役の管領に任命された。
- 2 公家の文化と武士の文化の融合があらわされている金閣を北山の別荘に建てた。
- 3 天皇中心の新しい政治を始め、武家の政治を否定し、公家（貴族）重視の政策を行った。
- 4 武士と農民とを一体にし、守護大名を追い払う一揆を起こした。

分析 正答率が34.7%と低い割合であった。勘合を用いた人物を特定し、さらにその人物について説明している文を選択するということで、知識だけでなく思考力・判断力も問われる問題であった。小学校までの既習事項と、中学校で学習する当時の政治や社会について、それぞれの理解が不足していることが分かる。

指導のポイント

1 資料を効果的に提示し、その読み取りを深めていく。

教科書に掲載されている資料に関しての読み取りを行う際においても、資料の提示方法の工夫としてICT機器を利用する方法がある。実物投影機を利用することで、どの部分を読んでいるのかを全体で確認ができたり、パワーポイントで順番に提示をすることで、注目させたい部分を強調したりすることができる。また、ワークシートなどを用いて作業をさせることで、個別学習にすることもできる。

2 歴史的分野においても、積極的に地図帳や掛け地図等を活用する。

教科書などで地名が出てきた際に、地図帳で調べることや、略地図などを描き位置関係などを確認することで、地図に関する技能やその事象に関する理解を深めることができる。場所の確認をすると歴史上のできごとの地理的な要因との関連をもたせることができ、多面的・多角的な見方や考え方を養うことにもつながる。また、資料の収集、処理や発表などにおいては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの積極的な活用も有効である。